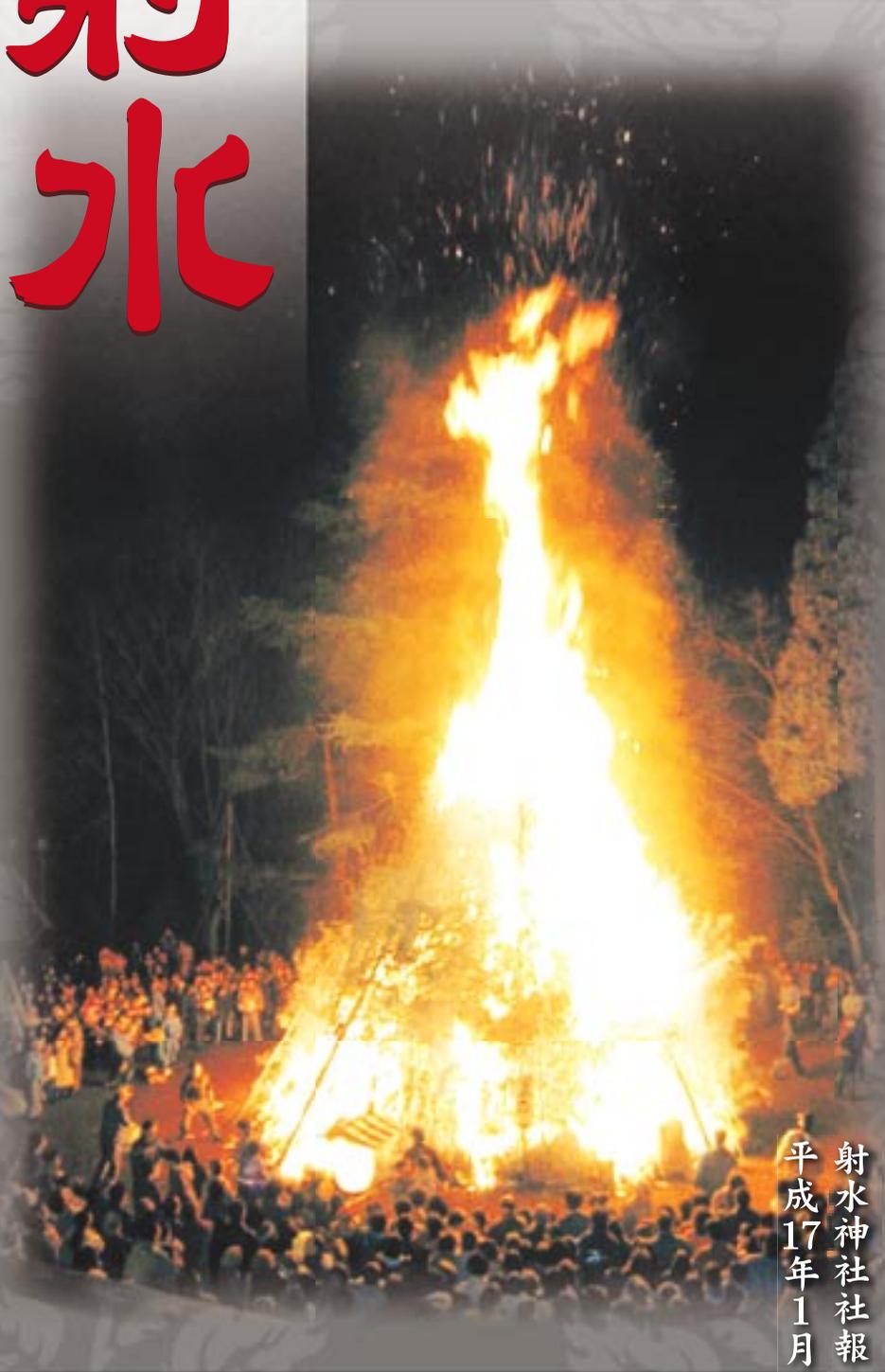


射水



第3号

射水神社社報
平成17年1月発行

年頭挨拶

宮司 松本正昭



皇紀二六六五年平成十七年の初春を迎え、新年を寿ぎ賀詞を申し上げます。

昨年は殊の外台風の影響が数多く、全国的にも台風による水害その上に、新潟中越地震と自然界のはかり知れない脅威をまざまざと感じさせられた歳でありました。聴くところによりますと、全国津々浦々で家屋の倒壊・人命被災と様々な被害に遭遇され、新春を迎えられた今も、さぞかし難儀な

ことと拝察申し上げ、心よりお見舞い申し上げる次第であります。幸い富山県は立山・白山連峰の山々の御蔭により全国的から見ても被害が少なかったようでありますが、数多い台風の影響により奥山の熊の食する木の実が落ち、その為には熊が食を失い民家に出没し危害を被った年でありました。

長閑な水田、木々に覆われた山々、我々の日本は、祖先が長い歴史の中に育んできた自然との共存の中に、知恵と思想文化を生み出し、世界の中でも類を見ない自然と文明を長い間共存してきた国でありました。

それは、日本の文化の原点を織り成す稲作にあります。日本の稲作は水稲が主で、水源である木々に覆われた山より水を戴き、その恵みによって稲が豊に実り、自然の脅威と恵みを感じ取り、自

然の中に人の力では及ばない神の存在を信じ、それ故に、人は自然の怒りを恐れ、祈りを捧げてきたのであります。人の利得のみに邁進し、自然を蔑ろにすることは、必ずや神の怒り蒙ることになりかねないわけであります。自然を守ることは、日本国土を守り、強い文化を守る事であります。

我々祖先が自然を育て自然と共に生きてきた知恵と思想文化を謙虚に学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

新春を迎えた平成十七年は当神社にとりまして、鎮座千三百三十年・又、二上の地より現在地に遷座されてより百三十年・鎮座千三百三十年祭の節目の年であります。

この節目の歳を迎えるに当り、厳肅に式年大祭を斎行し、神威の発揚と神徳の宣揚に、神職・役員

始め職員共々に気持ちを新たに致しております。

崇敬者・奉賛会員の皆様には格別な御厚誼賜りますようお願い申し上げますと共に、平成十七年が実りある年と成りますよう衷心より祈念申し上げます、年頭のご挨拶と致します。



〈遷座百三十年記念〉

観月祭



平成十六年十月九日(土)射水神社参集殿にて、第一回の観月祭が執り行われました。当日は生憎の天候にも拘らず、約六百人の観衆があつまり、平素とは異なる厳肅な雰囲気の中、伝統の雅楽を楽しみました。雅楽演奏は、地元富山県福岡町を中心に活躍される「洋遊会」の皆様、並びに「富山県神社庁雅楽部」の皆

様により奏され、ご来場の皆様には満足のいく演奏になったのではと確信しております。

和敬清寂

(社)裏千家淡交会高岡支部

支部長 荒井公夫

豊かな樹木と水濠に恵まれ、とても都市の真ん中にあるとは思えない高岡古城公園の略中心に鎮座する射水神社は、高岡市民に最も敬愛されてきたお宮さんです。とくに初詣でや七五三では多くの人で賑わいます。

私共茶道裏千家淡交会高岡支部はご縁があつて、この射水神社の初詣茶会を隔年で担当させて頂いております。年が改まって人々は心機一転初々しい気持ちで神前に向かいます。そして平安泰平を祈るのです。

そのような折にお茶を一服という

のは、お茶を点てる人もそのお茶を温もりを手の内に感じながら頂く人も気持ちを一つにしてくれるのです。初詣での清々しい気分と、お菓子の甘味とお抹茶の上品な苦みの絶妙のハーモニーとが渾然一体となつて、とても穏やかな優しい心地になります。これは茶道の心得のある人は勿論、ない人でも同じことです。お茶というものの懐の深さだと思います。

さて、安土桃山の茶人で千家流茶道の開祖の千利休によつて格式が出来上がった茶道は、最初は武家のものでしたが時代を経て世にひろがり、明治以降は特に名を成した経済人の粹な楽しみとして、各地にいわゆる数奇者たちが相集つて同好会をつくりました。ここ高岡にも、実は私の祖父もその会員の一人でしたが、そのような会があり、折々に相集つて茶会を楽しんでいたようです。もともと高岡には前田侯の肝煎りで銅や鉄などの铸件作りが盛んになり、当然釜

などの茶道具も造られるという素地があつた訳で、各流派の茶道の集まりが早くからできていました。

裏千家茶道の高岡支部もそのうちの一つです。射水神社初詣茶会をご奉仕させて頂きながら、利休が伝えた「和敬清寂」の茶道の心に今一度想いを寄せて一層精進してまいります。



杜の景色(下半期)

- 6月30日 夏越大祓
- 7月上旬 職場安全祈願祭
- 7月上旬 奉納書道展
- 7月10日 悪王子社秋祭
- 8月27日 諏訪社例祭
- 9月16日 秋季大祭
- 9月22日 日吉社秋祭
- 11月1日～30日 七五三まつり
- 11月3日 明治祭
- 11月23日 新嘗祭
- 12月23日 天長祭
- 12月31日 師走大祓
及除夜祭

奉納書道展

今年で二十五回を数える、恒例の奉納書道展が、当社にておこなわれました。本年の主な表彰者は下記の通りです。



高岡市長賞

石動小学校 六年 菊池 加奈
高陵中学校 三年 吉川 佳見

高岡市議会議長賞

博労小学校 五年 千田 真瑠
芳野中学校 二年 田岸恵理花

高岡商工会議所会頭賞

砺波東部小学校 四年 石田瑠美子
横田小学校 六年 板谷 知明
高岡西部中学校 一年 京橋美賀子

富山県神社庁長賞

高岡西部中学校 三年 米納 千尋
龍谷高等学校 三年 山口 玲奈

射水神社宮司賞

成美小学校 四年 田中 萌夏
東五位小学校 五年 八田 千香
南条小学校 六年 森田 夏生
高岡高等学校 一年 岡山 瑞記
一般 奥畑 幸子

射水神社奉賛会長賞

成美小学校 二年 高田 莉加
東五位小学校 三年 大谷 俊太
東五位小学校 五年 酒井 渚
東五位小学校 六年 高木 洗輝
国吉中学校 三年 岡元 友里

高岡市書道研究会会長賞(三名)

高岡RC会長賞(三名)

高岡西RC会長賞(三名)

高岡北RC会長賞(三名)

高岡万葉RC会長賞(三名)

高岡信用金庫理事長賞(二名)

大和高岡店長賞賞(二名)

北日本新聞社賞(三十三名)

射水神社奉賛会賞(三十名)

秋季大祭

秋晴れに恵まれた九月十六日、当社秋季大祭が斎行された。

祭典は、齋主祭員参進着座の後、海川山野の種々の神饌が、御神前に次々と供えられ、齋主の祝詞奏上、献幣使の祭詞奏上、そして巫女が正装を身に着けての神楽「浦安の舞」の奉納。また、射水神社宝生会の皆さんの謡曲も奉納され、祭に彩りを添えた。そして、ご参列の方々が次々に御神前に進み、玉串拝礼をされ、神恩感謝の誠を捧げられた。



社務日誌

〔五月〕

- 六日 禰宜、白山比咩神社例祭参列
- 十一日 富山青葉会総会
(宮司・禰宜・炭谷権禰宜出向)
- 十三日 悪王子社例祭
(宮司・清水・近尾両権禰宜奉仕)
- 十六日 高岡市長選挙当選祈願
協賛会会合
- 十七日 青葉会出席
(宮司・東京出向)
- 二十三日 第一回観月祭打合せ会

〔六月〕

- 一日 宮司・富山市日枝神社例祭参列
- 四日 御本殿建築者(伊藤忠太)子孫来社
- 六日 高岡高陵中学雅楽演奏会助勢
(職員出向)
- 八日 第二回観月祭打合せ会
- 九日 北陸神青協理事會
- 十二日 白山比咩神社氏子青年会正式参拜
- 十九日 プライダル相談会
- 二十六日 第三回観月祭打合せ会
- 二十七日 鎮火祭執行
- 三十日 夏越大祓執行

〔七月〕

- 一日 全国職場安全祈願祭
- 四日 プチプライダルフェア
- 七日 北陸神青協研修会開催
- 十日 悪王子社秋季例祭
- 十一日 奉納書道展審査会
- 十七日 高岡新湊支部・神職・総代会
- 二十一日 北陸地区神社庁協議会正式参拜
- 二十五日 奉納書道展表彰式

〔八月〕

- 一日 水川神社プライダルフェア1見学
(職員出向)
- 二日 消防訓練
- 三日 浦安の舞講習会於参集殿
(地子・石王丸両子女出席)
- 七日 前屋鋪宮司一年祭
- 十日 清水権禰宜、神社本庁教学研究
究生委嘱辞令交付
(神社庁出向)
- 十九日 神社庁協議委員会出席
(宮司・神社庁出向)
- 二十二日 写生大会表彰式
(炭谷権禰宜出向)
- 二十七日 諏訪社秋季例祭
神社庁研修会於高瀬神社
(職員出向)
- 二十八日 射水協賛会会合
神社庁総会於高瀬神社
- 三十日 明治神宮、宮崎禰宜正式参拜

〔九月〕

- 七日 参拝研修旅行 京都
(射水神社責任役員)
- 十二日 プライダルフェア
- 十三日 宮司・高瀬神社例祭参列
- 十四日 山梨県総代会参拝旅行 下見
(関係者来社)
- 十五日 富山市月岡中学へ雅楽演奏
(職員助勢)
- 十五日 秋季大祭前日祭
- 十六日 秋季大祭
- 十七日 秋季大祭後日祭
- 十九日 高岡・新湊支部祭式講習会
- 二十日 日吉社例祭
- 二十六日 院内社秋季祭
第四回観月祭打合せ会
- 六日 観月祭案内放送
(清水権禰宜・ラジオ高岡出向)
- 八日 観月祭奉告祭
- 九日 観月祭
- 十四日 芳野中学雅楽授業助勢
(職員出向)
- 十七日 神嘗祭当日祭
- 十九日 高岡市護国神社前日祭
- 二十日 高岡市護国神社秋季大祭
- 二十一日 高岡市護国神社後日祭
- 二十五日 炭谷権禰宜中堅神職講習会参加
- 二十六日 綿貫民輔宮司長老祝賀会へ参列
(宮司以下職員三名)

〔十一月〕

- 二日 宮司・禰宜県神社調教化委員
役員会出席
- 三日 明治祭斎行
- 八日 神社庁雅楽部用務
(禰宜・東京出向)
- 十日 宮司・北陸四県教化委員会出席
全国神青協代議員会出席
(炭谷権禰宜)
- 十五日 富山青葉会出席
(宮司以下職員二名)
- 十六日 支部事務担当者会議出席
(近尾権禰宜)
- 十七日 兵庫県金毘羅神社崇敬会九名参拜
新潟県へ県神青会メンバーと
神社被害調査(近尾権禰宜出向)
- 十八日 さみさと小(朝日町)雅楽演奏
(禰宜・炭谷・清水両権禰宜出向)
- 二十三日 新嘗祭斎行
- 二十四日 山梨県神社旅行団体正式参拜

〔人事〕

- 新任
- 巫女 石王丸美緒
平成十六年四月一日
- 事務員 石田 ユキ
平成十六年十二月一日



越中の食彩

橋楼

店主 橋 一之

冬の料理『鰯大根』

富山湾が魚の宝庫であることは言わずと知れたことであるが、冬の代表的な魚としてブリがある。ブリは縄文時代から食用に供せられていた魚の一つである。魚偏に師と書くのは、師走(十二月)がよいとされたためというが、旧暦であるから現在では一月か二月上旬である。この魚、出世魚の代表格である。富山県では、ツ바이ソ、コズクラ、フクラギ、ガンド、ブリと呼び名が変わる。出世魚であるために縁起をかついで、正月やお祝いごとによく用いられる。また富山県にはその年に娘を嫁がせた家は、年末には嫁ぎ先にブリを贈るという習慣が現在も残っている。神への祈りに近く、自然の恵みを贈るといふ親たちの想いが込められている習慣に違いない。

この魚を素材にした料理にはいろいろあるが、冬の富山県に最もふさわしい家庭的な料理として「鰯大根」がある。冬の富山湾でとれた天然の寒ブリのあらを箸で崩れるくらいまで煮こむブリ大根。時間をかけて煮れば煮るほど、ブリのあらと大根の旨みがおいしく溶け合う。味は味噌仕立。醤油味のものもあるが、冬の富山県の気候には田舎味噌がこのブリ大根にはよく似合う。上がりに針柚子を天盛りにして仕上げると季節の柚子の香りがより一層ブリ大根を引立てる。いつまでも残していきたい郷土の料理である。

ご結婚おめでとうございます。

御神恩をいただき、幸おおからん事を。(6月～11月)

六月	大越 透・佳乃様 Erick スミツ・聡子様 三箇 昇・咲子様	田島 一人・梨香様 立浪 利樹・幸恵様 東 寛之・幸子様	前田 雅成・みどり様 小林 利臣・淳子様	谷川 淳・真紀子様 小竹 利幸・園子様
七月	西田 暁・直美様			
八月	沙 勝光・薫里様			
九月	東海 浩人・昌美様 八田 忠夫・茜様 河村 耕平・春代様	荒井 正樹・安津子様 竹部 光哉・千晴様 島 康博・真希子様	テリス イング・多果美様 濱元 敏博・亮子様 河原 雅典・直美様	阿賀 貴之・麻美嘉様 吉久 毅・美幸様 上野 剛志・真由子様
十月	三浦 正博・京子様 畔上 至朗・宏子様 太田 雅晴・幸恵様 谷内 和彰・祐美様 大坪 公士郎・万紀子様	長谷川 久・優美様 鈴木 孝俊・千春様 島井 悟・賀司恵様 清水 健一・あけみ様	大島 秀紀・くみ子様 上島 利幸・麻美様 間嶋 成佳・美貴様 脇田 雄一・千昌様	西川 紀之・香理様 辻 賢太郎・純子様 宮崎 泰央・由香様 小泉 茂一・友子様
十一月	野原 淳・わるつ様 森田 優平・瞳様 樋川 都市・夕子様 野村 勇喜・仁恵様	平田 昌功・千佳様 松村 謙二・里美様 佐伯 文敏・るみ様 三浦 和己・光江様	立野井 慎一・麻衣子様 樋口 和史・恵里子様 宮池 祐一郎・美華様	石崎 岳・美智子様 横山 和寛・梨江様 砂田 泰和・嘉寿子様

『ふるさと 射水神社』

③射水神社と伊彌頭国造

射水神社の創建の歴史は遠く、神代からの古社であると考えられる。それを確証する史実はないが、伊彌頭の国造の崇敬社で郷土

第一の氏神として、少なくとも千数百年以前より崇敬があつたと思われる。国造の制度は古代地方において領土、領民を有して、天皇に奉仕した豪族で、行政権と祭祀の両面を司り、天皇の勅命によって任命されたものである。伊彌頭国造は武内宿禰の子孫である大河音足尼が始祖であるといわれている。『景行天皇紀』二十五

年、越中の蝦夷を皇化し、土着民族のために農耕を教え導いたと記されている。この藤津の越中における治績を考えると、大河音足尼が祖父又は藤津の残した聖業の基盤に立って、意志を受継ぎ射水の郷の長となり、一族を始め他の土着民族をも統治したものと考えられる。

国造の館は現在の高岡市伏木の国府のあたりと推定されている。二上山より一望する射水の郷の国土開発、文化の発展に終生を勞して、この地に没したものである。その治績を伝える文献は見当たらないが、子孫が永く射水臣と称し、郡政に参与し一族から三善爲康が算学博士となり、射水臣の名は土御門天皇の正治二年（一一二〇年）まで、しばしば史上に見える。大河音足尼に関しては現在墳墓が発見されていないが、前方後円墳二基、円墳十基以上の桜谷古墳群は伊彌頭国造の一族の墳墓で、その主墳は大河音足尼のもの

と推測されている。国土開発、文化の発展に努めた大河音足尼の治績を射水の郷の居住者がその武勲と功績を称えたのであろう。

日本で最初の大臣として国政に参与した武内宿禰(左)。伊彌頭国造は武内宿禰の子孫である大河音足尼が始祖である。
(写真提供/鳥取県鎮座 宇倍神社)



編集後記



平成十六年より、射水神社におきましては、御遷座百三十年祭に向け、各種諸行事を計画しております。その一環として行なわれました、「射水神社観月祭」は市内を中心とした、篤志の皆様のご協力を賜り、十六年十月に、第一回が賑々しく執り行われました。茲に関係各位のご助力に深謝申し上げますと共に、本年より始めご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

■表紙の写真は、当社「左義長（射水の火祭）」の写真であり、例年一月十四日の小正月、境内中央に高さ五メートルの櫓を組み、一年間家庭を守られた、お札・お守、等を入れ、感謝の念を持ち、御焼納する神事を行ないます。尚この火にあれば、一年間の無病息災が約束されるとの信仰も生まれており、射水神社でも多数の参加をお待ちしております。

発行 射水神社

発行所 〒933-0044

高岡市古城1の1

0766-222-3104

0766-211-3715

印刷所 キクラ印刷株式会社

「三献の儀」

神前結婚式で行われる儀式の中でも、一番重要視されており、三つの盃は天（一盃）地（二盃）人（三盃）を表し、各三献（三巡）ずつ口にする儀式です。

結婚式において三献の儀が重要視されるのは、新しく夫婦になられますお二人の絆を固める盃であり、お二人を厳肅な気持ちにさせてくれるものであるからです。三献の儀の始まりは我が国古代までさかのぼり、応神天皇が山城の国で出会った女性に求婚し、翌日天皇が女性の家へ行かれた際、女性をご馳走を用意し天皇に御盃を捧げ、天皇が歌を歌われ御祝いされたのが始まりとされており、お神酒がなぜ日本酒であるかは、



酒の語源が「栄える」や「邪気を避ける」からきていることを考えれば酒は慶事にはびつたりの縁起の良い飲み物といえるでしょう。これがビールだったりするとせっかくの幸せが泡と消えてしまうかもしれません。皆様方も古城の杜の中心射水神社で神様からのお神酒を頂き、永遠の愛を誓われてみてはいかがでしょうか。

うつくしの杜
ブライダルフェア

射水神社では、この春以降に挙式予定のお二人をご優待し、本格的な和の神前式から披露宴までをご覧いただける「うつくしの杜ブライダルフェア」を開催いたします。「結い紐の儀」を始め、うつくしの杜ならではのオリジナリティあふれる演出、和の儀式のうつくしさをぜひご体感ください。

◆ブライダルフェア日程(予定)
平成17年 **2月20日(日)** 12:00~19:00

うつくしの杜、結婚式場

射水神社

〒933-0044 高岡市古城1番1号(高岡古城公園内)

お問い合わせ電話番号

(0766) **22-0808**

URL <http://www.imizujinja.or.jp>
Eメール info@imizujinja.or.jp

